



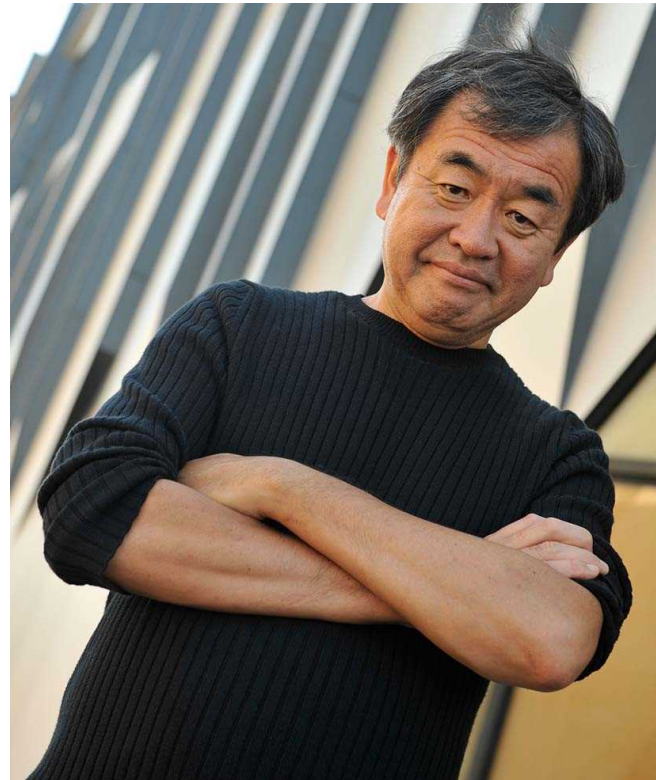
# ネイチャーポジティブの実現に向けた事例紹介 ～多様性のある森づくり～

一般社団法人more trees

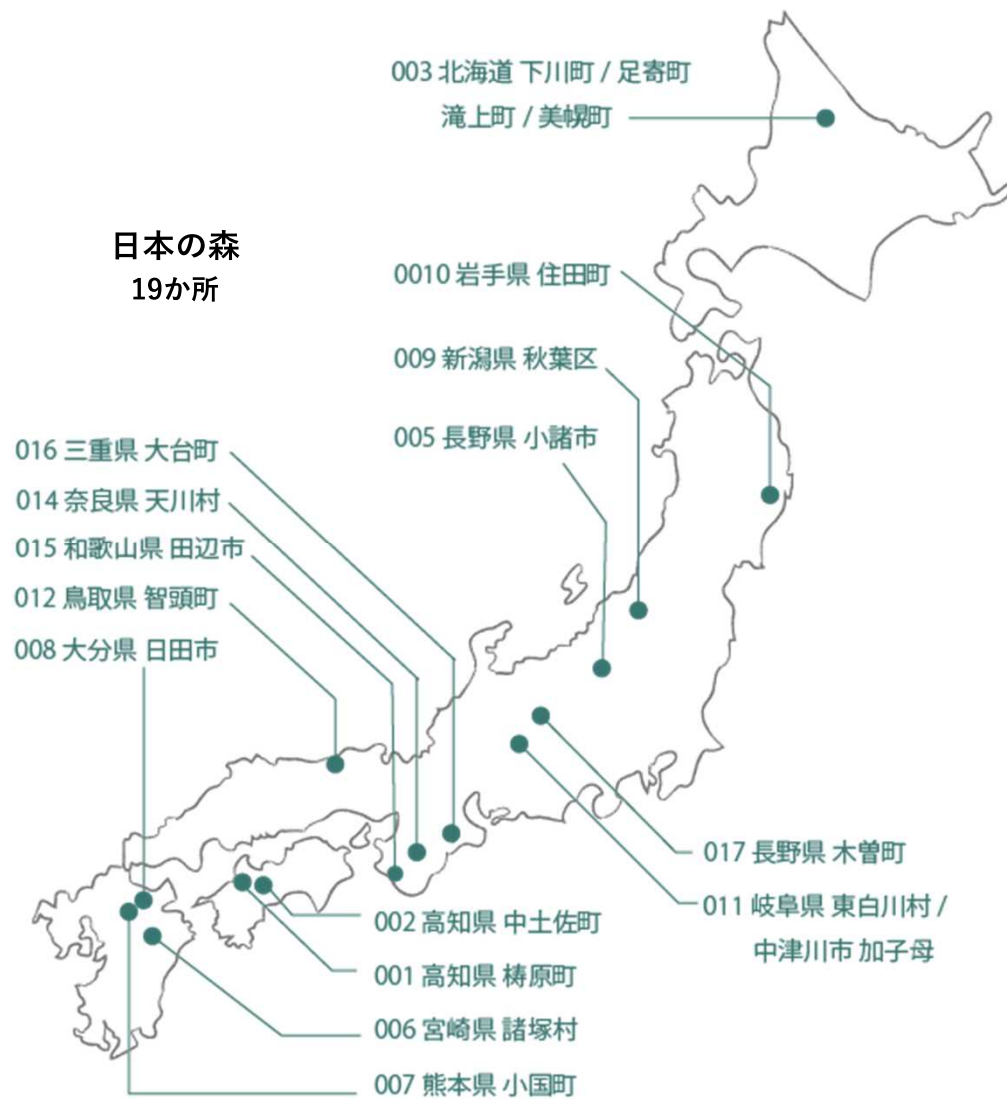
## more treesとは

音楽家 坂本龍一が創立し、建築家 隈研吾が代表を務める森林保全団体。

地域と協働で森林保全を行う「more treesの森」の展開、商品やサービスの企画・開発、森の情報や魅力の発信など「都市と森をつなぐ」をキーワードに「森と人がずっとともに生きる社会」を目指したさまざまな取り組みを行っている。



日本の森  
19か所



海外の森  
2か所



## more treesの活動

### 森を保つ



【more treesの森】

### 森と「人」をつなぐ



【森林ツアー】

【講演・シンポジウム】

【ワークショップ】

### 森から「もの」を届ける

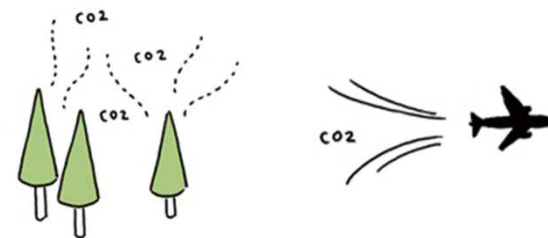


【オリジナルプロダクト】

【ノベルティ】

【店舗什器】

### 森と「空気」を変える



【カーボンオフセット】



# 多様性のある森づくり



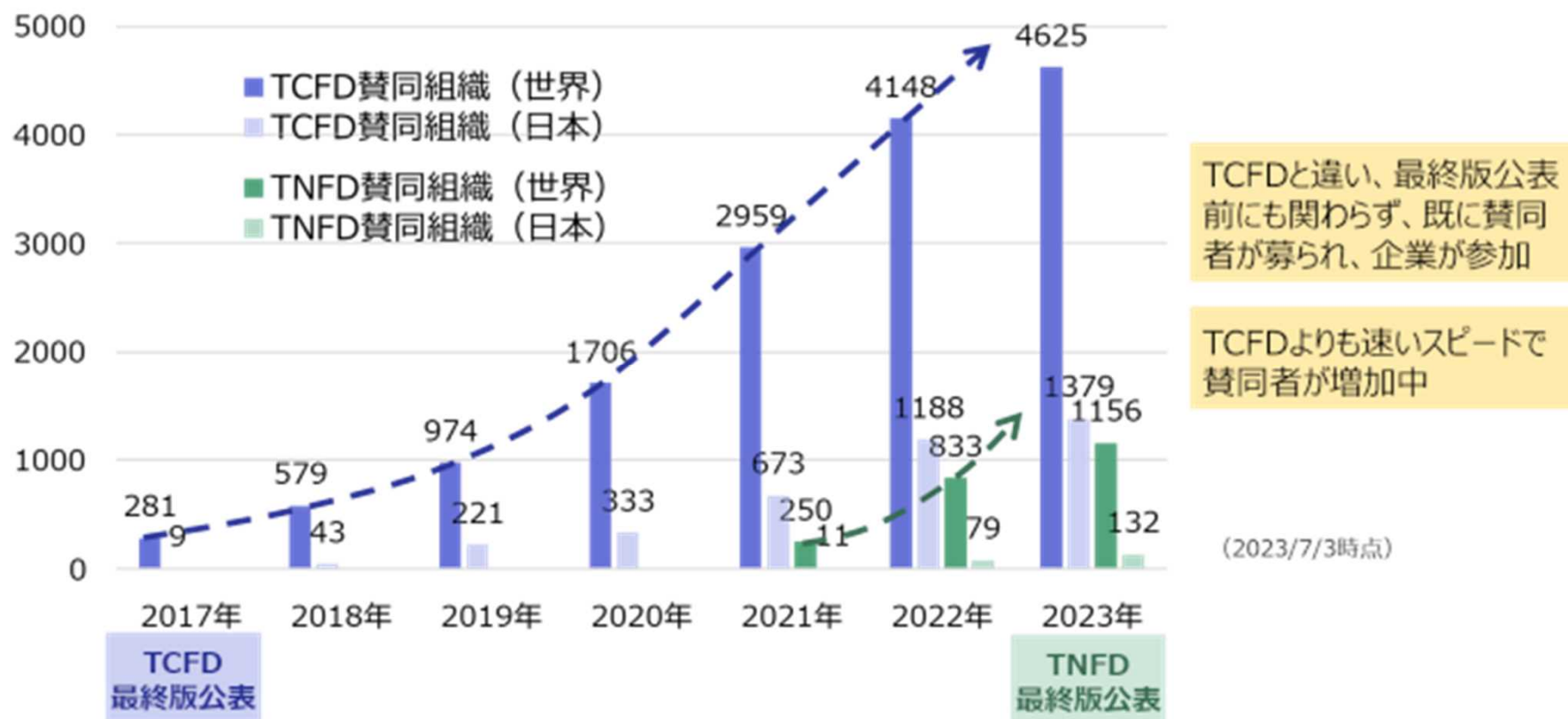




他方、脱炭素・ネイチャーポジティブなどの文脈から  
森林に対する企業側の関心は急速に高まっている

## ネイチャーポジティブの実現に向けた企業の拡がり

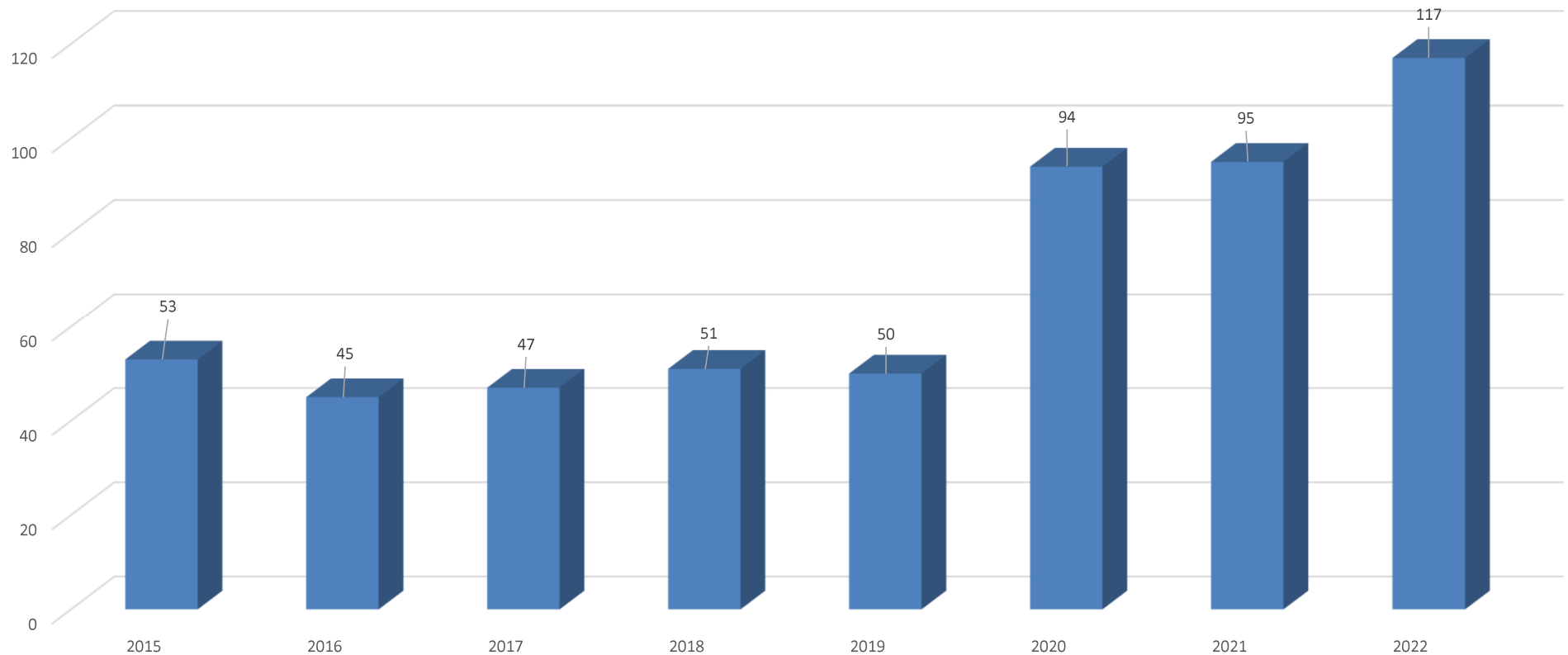
TNFDはTCFDに6年遅れをとって最終版が公表。  
しかし、賛同企業の増加スピードは明らかにTCFDを超えている。



出所: TNFD公表資料より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

Copyright © more trees . All Right Reserved

## 協賛企業数の変化



都市部の企業と地域をマッチングし、  
森づくりをきっかけとした関係を構築

実績：11地域、15企業  
(他に5社内定)



# 「多様性のある森づくり」 具体例

## 事例① 奈良県天川村

約28haのスギ林伐採跡地へキハダを中心にミズメ、アカシデ、ウリハダカエデなど複数種の広葉樹を植林。植栽樹種の1種であるキハダは、1,300年以上の歴史がある和漢薬「陀羅尼助丸」の原料であり、かつては村内で原料調達から製造までを一貫して行われていたが、戦後の拡大造林政策によりキハダは村内から姿を消した。村のアイデンティティともいえるキハダを復活させるとともに、将来的には択伐することで経済的に回していくことも見込んでいる。



- ・ 植林密度：500～1,000本/ha
- ・ 植林樹種：キハダ、ミズメ、アカシデなど
- ・ 植林方法：巢植え
- ・ 獣害対策：パッチディフェンス※
- ・ 有識者：高田研一氏



## 事例② 高知県梼原町

町名の由来であるイスノキ（別名梼の木）など、地域の植生に合わせた複数の広葉樹を植林。植栽エリアである芹川地区は四万十川の源流に位置しており、保安林に指定されていることから広葉樹林へ転換することで、水源林としての機能を最大限発揮させることが期待される。



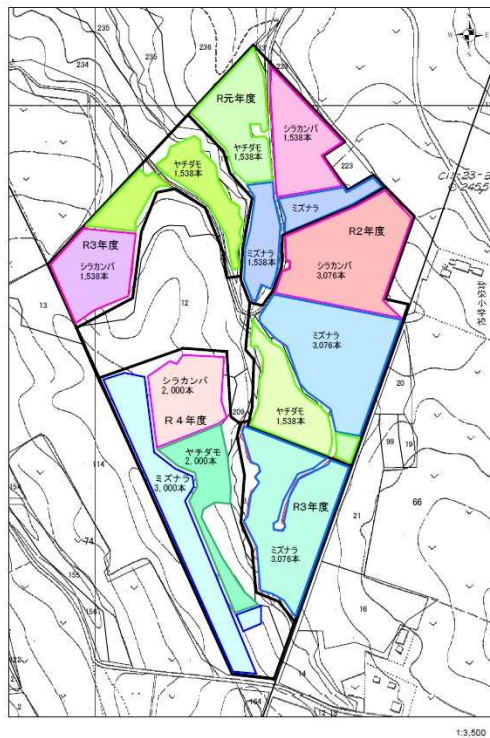
- ・ 植林密度：2,500本/ha
- ・ 植林樹種：イスノキ、ホオノキ、ケヤキ、イロハモミジなど
- ・ 植林方法：単木植栽
- ・ 獣害対策：ゾーンディフェンス
- ・ 有識者：石川槇吾先生（高知大学名誉教授）



## 事例③ 北海道美幌町

周辺に一級河川「網走川」支流が流れるなど水源としての機能が求められる立地であることからカラマツ造林地の皆伐跡地を多種多様な樹木で構成される森に転換。

斜面上部にシラカンバ、中腹にミズナラ、沢沿いにヤチダモをゾーニングし植林。



- ・ 植林密度：1,500~2,000本/ha
- ・ 植林樹種：シラカンバ、ミズナラ、ヤチダモ
- ・ 植林方法：単木植栽
- ・ 獣害対策：なし
- ・ 有識者：吉田俊也教授（北海道大学）



こうした「多様性のある森づくり」の活動は、  
**現行の自然共生サイトには合致せず**

理由：現行の自然共生サイトは、  
「すでに生物多様性の保全が図られている区域」が認定要件

## ネイチャーポジティブ実現のために

- 現行の施策は、これまでに実施した活動の生物多様性を評価する制度であり、将来に向けた視点が必要なのではないか？
- 現時点では裸地や植林直後である場合、生物多様性が評価に値するまで少なくとも10年は要する。その間、企業が継続するモチベーションが損なわれるのは機会損失である。



“現時点では生物多様性が充実していないが、回復のための適切な目標設定やそれに向けた施策を進めている活動を認定する制度”が必要ではないか。

## プレオーガニック Cotton の例



### 概要

「プレオーガニック Cotton」は、オーガニック Cotton ではありません。オーガニック Cotton に認定される前に収穫された無農薬で育てられた Cotton のことで、正式なオーガニック Cotton になる前の、オーガニックへの橋渡しをしている Cotton です。

Cotton 生産者がオーガニック Cotton 栽培を始めるときに、難しい課題があります。

- 害虫や栄養不良で収穫量が落ちることがある
- オーガニック農法がわからない
- オーガニックの認証制度がわからない
- 遺伝子組換えをしていない種が手に入らない

そこで「プレオーガニック Cotton プログラム」では、移行期間綿を購入することでその課題を乗り越えられるようサポートしています。

(「[PRE ORGANIC COTTON PROGRAM](#)」より引用)

*more***Trees**®





*more***Trees**